

(内部用)

2020年 中区障害者自立支援協議会 発達障害部会 研修会	
日時	令和2年2月14日(金) 13時00分～15時00分
開催場所	中区役所 7階会議室
出席者	参加者：31名(構成員除く) 構成員：9名 事務局：5名
欠席者	人
開催形態	公開(傍聴人： 名) ・ <span style="border: 1px solid black;">非公開</span>
議題	研修会：発達障害の基礎知識と関わり方のヒント 発達障害についての基礎知識から、発達障害のある方を理解するための捉え方や考え方のヒントについてお話しします。また、参考までに生活上で活用できそうなツールや利用できる社会資源についてもふれていきます。
内容	<b>【研修内容】</b> 講師：横浜市発達障害者支援センター 三浦 奈都弥 氏 パワーポイント、配布資料を参照。研修を進める。 テーマ：発達障害の基礎知識と関わり方のヒント 内容： ・発達障害とは？ ・面談場面で活用できそうなシート ・社会資源について  ○特徴について ○社会性について ○コミュニケーションの質的な障害 ○想像力の障害 ○独特な情報処理のプロセス ○ご本人のことを知るヒント ・プチワーク(お化け屋敷の恐怖感) 席が隣の人と組んで行った。内容は、お化け屋敷の恐怖感を減らすにはどんな方法があるのか？ 上がったアイディアとして ➡室内を明るくする、脱出ポイントを伝える、見通しを持たせる、お化けを加工する等。 そのような時にどうして本人が、そのような行動をとったのか、背景を確認 何が怖いのか、探る➡探る手伝いをする。 具体的な行動、できること・できないこと、特徴的な行動の様子

○面談等で活用するシート（参考までに）

- ・生活記録表等
- ・ストレスチェック表
- ・面談シート例・・・本人記入の場合、支援者記入の場合

○言葉のチョイス

普段支援者が何気なく使っている言葉についても、当事者はイメージがつかない人もいます。その人にあつた言葉を選んでみる。

○活用できる社会資源

- ・困り事の整理や相談

区役所、基幹相談支援センター、生活支援センター、若者支援機関（若者サポートステーション、青少年相談センター）

- ・過ぎしの場

地域活動支援センター、就労継続 A、B 型、就労移行、生活介護、施設入所、グループホーム

○18 歳未満の相談機関

幼少期：地域療育センター、区役所子ども家庭支援課、基幹相談支援センター

学齢期：小児療育相談センター、リハビリテーションセンター、横浜市学齢後期

発達相談室くらす、区子ども家庭支援課、基幹相談支援センター

大学などは、大学独自で、学生相談室がある。

学生相談室⇒医療機関などに繋がる。

○生活を守る

ヘルパー、生活訓練、障害年金、成年後見人、あんしんセンター

○障害者枠での就労

- ・就労支援センター
- ・障害者職業センター
- ・ハローワーク（専門援助部門）

○横浜市発達障害者支援センター

横浜市の委託 「社会福祉法人 横浜やまびこの里」が運営

センターの使い方

⇒みたてる、つなぐ、サポートする

### 【質問】

- ・発達障害者支援センターについて  
質)

①本人の困り事、支援者や家族の困り事の割合について？

本人の場合：18 歳以上⇒本人が多い。

30 歳～40 歳⇒仕事を始めてからのきっかけが多い。

	<p>②社会へのアプローチなどについて  「地域の力」、生活支援センターやケアプラザなどからの講演依頼が多い。  対象者は、地域住民への講演会が大半。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が困っていることよりも、家族が困っていることが多いことがある。</li> <li>・家族の相談も受けている。</li> <li>・幼少期</li> </ul> <p>療育センターにはつながったが、診察の待ちが多く、なかなか診てもらえない現状がある。あまり改善が見込めない。  →療育センターも相談先ではあるが、基幹相談支援センターも相談先の一つとして活用していくといいのでは。</p>
	<p>次回：部会開催 2020年3月17日（火）16：00～ 発達障害者支援センターにて。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会振り返り、アンケート確認</li> <li>・次年度の内容、方向性</li> <li>・部会長選任</li> </ul>